

決 裁	議 長	局 長 等	次 長	リ-ダー	担 当	合 議
						

令和8年2月 2日

養父市議会議長 様

養父市議会議員 深澤 巧

政務活動概要報告書

政務活動の概要を下記のとおり報告します。

記

- 1 活動 月日 令和8年1月24日(土)
- 2 活動 場所 神戸芸術センター「芸術劇場」神戸市中央区
- 3 活動 目的 第27回 発達障害理解のための基礎と実践講座
「発達障害のある人の”働く力”を育てる」 参加
- 4 活動 内容 国際ロータリー及び社会福祉法人主催
講演 受講

5 活動成果

講演 1 「学童期、思春期発達障がい者の特性理解と教育支援の最新情報」

大阪教育大学名誉教授
大阪医科薬科大学LDセンター顧問
竹田 契一氏

講演 2 「発達障がい者の就労支援について

就労に必要な基礎能力の獲得」
教育ジャーナリスト
(株)薫化舎 取締役副会長
品川 裕香氏

昨年に引き続き、神戸市での発達障がいの研修会に参加した。



昨年の決算審査でも指摘した通り、養父市でも児童生徒数の減少に反する比率で特別支援学級に在籍する児童・生徒数が増えている。

国調査でも、通常学級に在籍する小・中生の中で発達障がいの可能性のあるものは

- ① 学習面又は行動面で著しい困難を示す・・・8.8%
- ② 学習面で著しい困難を示す・・・6.5%
- ③ 行動面で著しい困難を示す・・・4.7%
- ④ 校内委員会に上がった子どもの中で
・特別な支援が必要・・・28.7%

と指摘されている、という。

昨年の決算質疑では、「国でも8.8%なので、養父市が特に多いというわけではない、云々」と聞こえなくもない当局答弁があったが、市でも不登校、登校しぶり、そして、中学卒業後の進学、社会的自立に関わる問題が内包されている、という受け止め方が更に必要であることを学んだ。

今回の研修で、最近においてはADHD（注意欠如多動性）の子どもを対象にした「デジタル薬（ADHD用のゲームソフト）や発達障がいで認知機能の特性的欠如を回復させる学際的プログラムの開発に取り組む企業も現れて、一部自治体や医療機関での実証に取り組む事例もあることを知った。

今回も保護者をはじめ500名を超える参加者があり、兵庫県LD親の会の活動を知る機会となり、また、会場で出会った地元の児童心理専門職の方とも意見交換することもできた。

これまで市議会において、サポート教室の充実、「ククナ」の施設整備などを取上げてきたが、発達障がいに関する課題を抽出できるような議員活動にも取り組んでいきたい。

以上